

〈高等学校〉芸術科音楽学習指導案

令和〇年〇月〇日 (〇) 〇校時 場所 音楽演奏室
4年〇組 〇名 授業者〇〇〇〇

1. 題材 ベートーヴェンの生涯をたどり作品を味わおう

教材 交響曲, 協奏曲, 器楽曲などから鑑賞曲を取り上げる
「歓喜の歌」シラー作詞/ベートーヴェン作曲/川崎祥悦編曲

2. 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材は、高等学校学習指導要領 B 鑑賞の(1)ア, イに関連する内容である。音楽は、文化的・歴史的背景と関わりながら総合的に理解されることによって、音楽のよさや美しさを深く感受することができるものである。ここでは、西洋の芸術音楽の中で古典派におけるベートーヴェンの音楽に焦点を当て、作曲者の生涯や当時の文化的・社会的な背景、音楽史における役割について、音楽の構造の特徴と併せて理解を深めながら鑑賞させることで、その楽曲のよさと美しさを深く感受させることをねらいとして題材を設定した。

(2) 教材について

古典派の音楽は形式美・様式美の音楽ともいわれ、代表する音楽形式はソナタ形式である。ベートーヴェンは新しい作曲法でソナタ形式を拡大し、ダイナミックな展開を可能にした。また、オーケストラの編成も2管編成が標準となり、ベートーヴェンはさらに多彩で大規模な編成を要求した。そこで、交響曲, 協奏曲, 器楽曲などから作品を取り上げ、時代背景や生涯と関連づけ、作曲者の創意工夫の観点から分析し鑑賞する楽しさを味わわせたい。また、交響曲に初めて合唱を取り入れた第9番《合唱付》より「歓喜の歌」を混声四部合唱することでその音楽の素晴らしさを実感させたい。

(3) 指導上の工夫

- ア. ベートーヴェンの生涯や作品にまつわるエピソードなどから人間像や芸術家像、諸作品におけるその楽曲の位置を理解させることで興味・関心を高める。
- イ. 鑑賞する際には、主題を実際にリコーダーで演奏したり、歌ったりするなど表現活動との関連を図ったり、楽器の生演奏で楽曲の一部を聴かせたりして、音楽形式や楽器の音色に対する感受力を高めるようにする。

3. 指導目標

- (1) 四声のバランスを生かした混声合唱をする技能を身に付けている。
- (2) ソナタ形式や構成要素によって生み出される曲想の変化を感受し、音楽活動を楽しみながら、主体的に表現意図を持って演奏する工夫をしている。
- (3) ベートーヴェンの音楽の特徴を時代の音楽の傾向や社会的背景等と関連付け総合的に理解し、聴き取っている。

4. 題材の評価基準

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>知</p> <ul style="list-style-type: none">・ベートーヴェンの生涯, ソナタ形式を理解し, ピアノの表情や音色, 曲の特徴を聴き取っている。・古典派の音楽の特徴, 時代背景を理解し, 曲の構成や独奏楽器の音色を聴き取っている。・オーケストラと合唱の関わりや曲の特徴を聴き取っている。 <p>技</p> <ul style="list-style-type: none">・ドイツ語の発音や, 四声の響きに気をつけて歌う技能を身につけている。・パート間のバランスや全体の響きに気をつけて合唱する技能を身につけている。	<p>思</p> <ul style="list-style-type: none">・ベートーヴェンの生涯, 古典派のオーケストラの編成や楽曲の成立過程を知り, それぞれの作品が生み出された背景との関わりを考える。・当時の音楽と社会との関わりを考えながら, ベートーヴェンが様々な形式の楽曲を作曲していることを知り, それぞれの良さや美しさを味わって聴いている。	<p>態</p> <p>音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の活動に取り組んでいる。</p>

5. 指導計画（全5時間）

時間	各時間の目標	学習活動	学習活動における評価規準の趣旨との関連	評価方法等
1	ベートーヴェンの音楽に関心を持ち鑑賞に取り組んでいる。	ベートーヴェンの生涯, ソナタ形式を理解し, ピアノソナタを鑑賞する。	知 態	活動の観察と鑑賞ノートの記述
2 (本時)	古典派の音楽の特徴, 時代背景を理解し, 曲の構成や楽器の音色を聴き取っている。	交響曲第5番と第6番を鑑賞する。	知 思 態	活動の観察と鑑賞ノートの記述
3	オーケストラと独奏楽器の関わりや曲の特徴を聴き取っている。	ピアノ協奏曲第5番を鑑賞する。	知 思 態	活動の観察と鑑賞ノートの記述
4	オーケストラと合唱の響きを聴き取り, 四声の響きを感じて歌唱表現を工夫している。	交響曲第9番を鑑賞する。 「歓喜の歌」のドイツ語読みとパート練習をする。	知 技 思 態	活動の観察と鑑賞ノートの記述
5	パートのバランスや響きを感じて歌い方を工夫し, 合唱する技能を身につけている。	「歓喜の歌」のパート練習と合唱練習をする。	知 技 思 態	活動の観察と鑑賞ノートの記述

6. 本時（2／5）

(1) 目標

古典派の時代のオーケストラやベートーヴェンの交響曲への理解を深め, ソナタ形式や主題の展開や響きの変化を味わって聴くことができる。

(2) 展開

時間	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準・方法
(分) 10	1. 古典派の時代のオーケストラの楽器編成やベートーヴェンの交響曲の特徴について知る。 ①標準的な編成と拡大化 ②ベートーヴェンの交響曲	<ul style="list-style-type: none"> 1740年頃の標準的なオーケストラの編成を示し時代とともに管楽器や打楽器が加わっていく流れをPowerPointで示す。 それまでの大量消費的な交響曲との違いについて確認し, 周囲と意見を共有する。 	態 (観察)
35	2. 交響曲第5番と交響曲第6番について理解する。 ①ベートーヴェンの人生と2つの交響曲 ②2つの交響曲の比較 3. 「交響曲第5番」より第1楽章の鑑賞 ①主題のリズムを手拍子を打つ。 ②ソナタ形式における動機や主題の展開に気を付けて聴く。 4. 「交響曲第6番」より第1楽章の鑑賞 ①主題をリコーダーで演奏する。 ②主題や曲の構成に気を付けて聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ベートーヴェンが絶望から立ち直り, 性格の対照的な2曲を書いたことから, 各曲に対する心情を想像させる。 《運命》にまつわるエピソードを解説する。 動機や主題の音型を指揮に合わせてリズム打ちさせ, 鑑賞の中で聞き取れたか周囲と確認する。 自然を愛したベートーヴェンと《田園》にまつわるエピソードについて説明する。 展開部に入る部分は予めCDで聴かせて, 展開部の特徴と雰囲気を感じさせる。 主題とその曲中での変化を確認する。 	
5	5. 交響曲の鑑賞を通しての感想をまとめ, 発表する。	○授業を通じて理解したベートーヴェンの交響曲の特徴と, 当時の評価, 古典派の交響曲の中での位置づけから各曲の価値を考え, クラス全体で共有する。	知 ・感想発表およびノートへの記述